

バンクーバーにおける公園レクリエーションプログラムの現状

金子 忠一

緒言

都市生活においてレクリエーション活動の場として、市街地及び周辺地域の公園緑地の存在は極めて貴重である。近年の余暇時間の増加とライフスタイルの変容により、人々のレクリエーション活動は多様化しており、特にアウトドア・レクリエーション需要は著しく増えている。そのような中で今日の公園緑地行政には、施設整備によるレクリエーションの場の提供、そしてプログラムによるレクリエーションの機会の提供という二つの側面の課題への対応が求められている。本報では、都市における公園緑地のレクリエーションプログラムのあり方を究明することを目的として、公園レクリエーション管理行政においては先進地域である北米都市の一つであるバンクーバー市を対象として、公園レクリエーションプログラムの現状を明らかにする。

1. 研究の対象と課題

カナダは、National Park、Provincial Park、Regional Park、Community Park (City Park) という4つのヒエラルキーの公園体系をもつが、バンクーバー市民が日常的に利用しているのは、バンクーバー市の都市公園とバンクーバー大都市圏 (Greater Vancouver Regional District、以下GVRDと略す) の地域公園である。これらの二系統の公園では、公園管理運営における利用サービスの一形態として公園レクリエーション・プログラムを実施している。本研究では、これら管理主体等が公園資源を活用して企画運営しているレクリエーション・プログラムの内容や運営方法などの特徴を究明することが課題である。

2. 地域公園におけるレクリエーションプログラムの現状

プログラムの企画運営は、GVRD公園局 (Park Department) の利用者サービス (Visitor Service) 部門が担っている。この部門には、イベント・コーディネーター、ボランティア・コーディネーターなどが属し、さらにGVRDコミュニケーション及び教育局 (Communication and Education) との連携が保たれている。17カ所の地域公園の中でバンクーバー市域内に位置する公園は1カ所、日常的利用が容易である隣接市域に位置する公園が4カ所ある。これらの5公園におけるレクリエーションプログラムの現状をみると1993年9月～94年8月の一年間に延べ149プログラムが実施されている。

プログラムの開催時期は、7月及び8月の夏季プログラムが中心となっているほか、全プログラムの8割以上は4月～10月 (サマータイム) の期間に実施されている。プログラムの内容は、教育プログラムとイベントプログラムに大別される。前者は、対象ならびに性格から「週末及び休日プログラム」「イブニングプログラム」、「子供プログラム (4～13歳)」「幼児プログラム (3～5歳)」「一般プログラム」に分けられ、テーマは「植物」「野生生物」「野鳥、水鳥」「魚」「地形」「星」など自然解説ならびに自然環境の探究を目的とした教室・講習、ワークショップなどであり、各々は1.5～3時間ほどで、パークレンジャー、ナチュラルリスト、インタープリターなどが指導している。後者のイベントプログラムは、祝日を中心に公園資源を活かした自然探索、ウォーキング、カーヌーなどを楽しむイベントである。

これらの運営システムは、季刊発行のレクリエーションプログラム案内のリーフレットにより一般に広報し、大部分のプログラムは、電話による事前予約システムの形式がとられている。参加費は、教育プログラムは4～12ドル程度、イベントプログラムは無料である。また毎年の利用実態調査のほか、数年毎に居住者のレクリエーション需要調査が実施され、プログラムの評価ならびに検討がなされている。

4. 都市公園におけるレクリエーションプログラムの現状

バンクーバー市の都市公園の現状は、1994年現在、164カ所、1249.33ヘクタールであり、公園レクリエーション局（Parks and Recreation Board）のレクリエーション・サービス（Recreation Services）部門がレクリエーションプログラムの責務を担っている。

プログラムの内容は、主要公園他でのイベントプログラム、管理所管にある植物公園における教育プログラムおよびイベントプログラムである。1994年1月～12月の一年間に公園など34カ所で82のイベントプログラムが開催された。その中で27イベントは市の中央公園的な性格をもつスタンレーパークにおいて開催されている。開催時期は、4月～10月の7ヶ月間に86.6%（71イベント）が集中しており、テーマは「ランニング(16)」「各種フェスティバル(15)」「ウォーキング(10)」の順に開催数が多い。それらはスポーツやコンテストなどの参加型プログラム、パレードや花火あるいはカーレースなどの観賞型プログラムに二分されるが、構成比は9:1である。

教育プログラムは、植物園の物的資源及び質的資源を活かした園芸や植物に関する教育啓蒙がなされている。この他に、コミュニティセンターならびに各種屋内運動施設において各種の芸術・文化ならびにスポーツに関わる講習プログラムを実施しているが、分析対象からは除いている。

5. 考察

バンクーバー市域の都市公園及び地域公園におけるレクリエーション・プログラムの現状から次のような特徴が明らかになり、我が国における公園レクリエーションプログラム確立の一つの指針となる。

- 1) レクリエーション・サービス部門が管理体制上確立しており、プログラムの企画から運営、評価までの責務を専属スタッフが担っている。
- 2) プログラムには、イベントプログラムと教育プログラムがあり、教育プログラムではパークレンジャーなどにより解説をおこなっている。
- 3) 教育プログラムの内容は、「生物」「植物」「昆虫」「植物」などをテーマとし、公園の存立基盤を十分に活かした資源活用型のレクリエーション・プログラムである。
- 4) イベントプログラムの内容は、公園の存立する自然環境資源やジョギング路等の公園施設を活用した参加型プログラムとなっている。
- 5) 教育プログラムは、自然環境に関わる知識の学習だけでなく、子供への環境教育の仕方を学習するためのプログラムなど、養成的な意味づけのプログラムも含まれている。
- 6) 利用者サービスの性格、対象者層を明確に分けている。
- 7) 利用実態や居住者のレクリエーション需要を定期的に調査し、プログラムを評価及び検討している。

脚注) 1)金子忠一(1997)バンデューセン植物公園の管理運営システムの分析と評価、ランドスケープ研究60(5)、667～672